

私からは、HPV ワクチン接種の助成について、区の防災対策について、国語教育のさらなる推進について、田端中学校旧校舎の利活用について、の大きく 4 点について質問をします。

最初に、HPV ワクチン接種の助成について質問します。

HPV（ヒトパピローマウイルス）は、現在 400 種類以上が確認されているウイルスですが、このうちガンの原因となる様なリスクの高いウイルスの種類は特定されており、そのほとんどがワクチン接種によって発症の予防が可能とされています。そのために日本では 2013 年に HPV ワクチンは 12 歳から 16 歳の女性が対象の定期接種ワクチンとなりましたが、接種後に健康被害を訴える女性が相次いだため、厚生労働省では積極的な接種の呼びかけを一時的に中断した経緯があります。その後、国内外でワクチンの安全性や有効性に関する研究が進み、HPV ワクチンに関しては子宮頸がんの予防効果の方が、ワクチン接種による副反応等のリスクよりも大きい事が認められ、2022 年に積極的接種の呼びかけが再開されました。しかしながら、積極的接種の呼びかけを控えていた 9 年間に 260 万人もの女性が正確な情報を得られずに接種機会を逃したとされ、その世代に対する救済策として現在「キャッチアップ接種」が進められています。

今年の第 1 回定例会において我が会派の代表質問で、キャッチアップ接種の接種率および接種率向上の取組についての質問を行いました。その後の接種率の推移状況および接種率向上に取り組んできた内容についてお示しください。

このキャッチアップ接種が今年度で終了する事もあり、HPV ワクチンのうち特にガーダシルとシルガード 9 については現在需要に対して供給が追い付いておらず、ワクチンがいつ納品されるのかが分からないため、新規接種の受付を行っていない医療機関もあると聞きます。現在、区内の医療機関における HPV ワクチンの流通状況について区としてはどのように認識しているのか、その見解を伺います。

代表質問で要望していた男性への HPV ワクチン接種に対する助成については、北区ではこの 7 月より開始された事について大変評価しています。助成対象者は小学校 6 年生から高校 1 年生に相当する年齢の男性ですが、希望者はまず区に対して予診票を申込む手続きとなっています。そこで、助成対象者となる男性の人数、および、これまでの予診票申請数をお示しください。

区のホームページに示されている通り、男性への HPV ワクチン接種で承認されているワクチンは 4 価ワクチンのガーダシルのみで、現在このワクチンの流通量は著しく少なくなっています。ガーダシルは 3 回接種が必要なワクチンで、3 回目の接種を終えるのは初回の接種から 6 か月後、接種期間を変更して短縮したとしても初回接種から最後の接種を終えるまでには最低 4 か月以上の期間が必要となります。現在のワクチン供給量不足の状況により、高校 1 年生の接種対象者の中には希望しながらも期間中に 3 回の接種を終える事ができない区民が生じる恐れが大いにあります。そこで、女性も含めて高校 1 年生相当の年齢で、年内に 1 回目の接種を終えた区民に対しては、3 回目の接種についての期間を延長すべきではないかと考えますが、区としての見解を伺います。

2つ目に区の防災対策について質問します。

今年1月に発生した能登半島地震では、耐震化されていない木造家屋の倒壊もさることながら、土地の液状化現象による甚大な被害も石川県を中心として数多く確認されました。液状化現象とは、地震が発生した際に土粒子の結合が弱まり地盤が液体状になってしまう現象ですが、特に埋立地や過去に川や海であった場所で現在は市街地化されている地盤は液状化現象が発生しやすいとされています。

能登半島地震では、液状化現象の発生によって多くの家屋が傾き、倒壊の危険は少ない為に住み続ける事はできても、傾いた空間の中で日常生活を送っているのが心身に不調を訴える方が多数います。また、損傷した下水道管の修理の目途が立っておらず、未だに自宅のトイレが使えない家もあります。

隅田川・荒川を挟んで隣接する足立区では区内に液状化リスクの高い地域が多くあるために、液状化の可能性の確認や対策方法をまとめたパンフレットを区が作成しています。そのパンフレットでは、東京都が行っている無料の液状化対策アドバイザー制度の紹介や、建物を新築・改築する際に区として推奨する建物基礎の工事方法を案内しています。東京都が公表している液状化危険度マップでは北区においても液状化リスクの高い地域があります。北区でも同様に区民に対して地盤の液状化に備える啓発活動を行っていくべきではないでしょうか。区としての見解を伺います。

次にこの8月よりリリースされた北区防災アプリについて伺います。

スマートフォンにこの北区防災アプリをインストールすることにより、外出先でも緊急情報をリアルタイムで確認でき、コミュニティ機能を使う事によって家族や会社内での情報共有が可能となる等、ぜひとも多くの区民や区内従業者に利用していただきたいアプリだと思いますが、リリースから3か月余りが経過した現在のダウンロード数はどれだけでしょうか。また、区として目標としている利用者数についても併せてお示してください。

隣接している荒川区でも同様の防災アプリをリリースしています。画面構成などから北区と同じ事業者のプラットフォームを利用していると思われませんが、表示される内容で最も異なっているのは、防災マップで表示されている帰宅困難者の一時滞在施設です。北区の防災アプリでは区のホームページで公表されている施設のうち、区立施設のみが表示されていますが、荒川区の防災アプリでは、現在荒川区が公表している区立施設、都立施設、民間施設は全て表示されています。北区でも発災時には全ての施設が表示される仕様となっているとの事ですが、帰宅困難者で一時滞在施設を必要とする方は北区の地理には詳しくない事も予想されるため、予め施設の大まかな位置を認識しておく事により発災時にはパニックにならずに行動する事ができるのではないかと思います。北区においても、区のホームページで現在公表されている分の施設については予め表示する仕様としてはどうかと考えますが、区としての見解を伺います。

防災マップ内には「区内の被害マップ」があります。幸いな事に、まだ被害が発生する状況が生じてはいないため、実際どの様に表示されるのか確認できませんが、被害情報に関しては隣接区の情報も表示されるべきではないかと考えます。東田端地域から最も近い広

域避難場所は都立尾久の原公園となっており、その避難場所へ向かうためには荒川区内を通行しなければいけません。その通行地域は大地震が発生した際の東京都の総合危険度ランクが4または5に定められている危険な地域です。また、尾久の原公園の周囲は都立大学のキャンパスもある広大な土地ですが、その周囲は隅田川と危険度ランク4・5の地域に囲まれています。関東大震災が発生した際、隅田川近くにあった陸軍被服廠跡地が広大な空き地であったことから、ここは安全だと思って避難したにも関わらず周囲を炎に囲まれて逃げ場が無くなった上、火災旋風に襲われて約4万人もの人命が奪われた悲劇がありました。この尾久の原公園一帯も同じ様な状況にならないとも限りません。これまでに示されている避難場所が本当に安全な場所なのか否か、隣接区と正しい災害情報の共有を行い、区民が自らの命を守るために正しい避難行動ができる情報を発信していく必要があると考えます。そのために防災アプリ上で隣接区の被害状況も知る事ができる様にする必要があると考えますが、区としての見解を伺います。

また、災害時に外出している方にとっては、水道やトイレを提供してもらえる帰宅支援ステーションの場所は大変重要な情報です。東京都の防災アプリからは東京都防災マップへのリンクが設定されており都内の支援ステーションの位置を確認する事ができます。北区の防災アプリからもこの東京都防災マップへのリンクを設定できないのでしょうか。区としての見解を伺います。

3つ目に国語教育のさらなる推進について質問します。

今年の3月に策定された「北区教育ビジョン2024」では、コロナ禍を経た学びのスタイルの変化、不登校児童・生徒の増加、また「北区子どもの権利と幸せに関する条例」に基づき「子供の最善の利益」を最優先とする中での今後5年間にわたって重点的に取り組んでいく主な施策について年度別の計画が示されています。

先月、山田区長が掲げる150の政策についての取組状況が公表されました。150の政策実現に向け現時点での進捗状況が示され、区民にとっては区の取組状況を分かりやすく知ることができると思います。そこで来年度以降、北区教育ビジョン2024における重点事業についても同様に進捗状況を区民に対して示していただきたいと思いますが、区としての見解を伺います。

北区教育ビジョン2024の「グローバル社会で活躍できる人材を育てる」取組の中では、重点事業として「北区ゆかりの偉人を学ぶ事業」があげられています。計画の中にはドナルド・キーンコレクションコーナーの設置がありますが、既に中央図書館にドナルド・キーンコレクションコーナーが設置されて10年以上が経過している中で、どの様にしてさらに活用・充実させ、区民に対して周知していく計画なのか、その内容についてお示してください。

飛鳥山博物館・北とぴあに於いては「ドナルド・キーンと『源氏物語』展」が11月24日まで開催されていました。そのパネル展示の中でドナルド・キーン氏が生涯をかけて研究する日本文学との出会いが「源氏物語」であった事が記されていました。1940年、当時18歳だったキーン氏は、ヨーロッパでのナチスの台頭によって戦争の影が日に日に大きく

なっていく事に気持ちが沈む中、ニューヨークのど真ん中・タイムズスクエアにあった売れ残った本を安売りしている書店でたまたま手に取った英訳の源氏物語に魅了され、その後氏は日本文学研究の道へと進んでいきました。

平成 20 年に外国人の学術研究者として初めて文化勲章を受章したキーン氏は大変偉大な研究者ですが、その偉大さを区民がさらに深く知るためにも、日本文学に対しての造詣を深める取組、言語技術を高める取組を行っていただきたいと思います。

北区は芥川龍之介が中心となって田端文士村が形成され、多くの作家が切磋琢磨し文化芸術の発信地となっていた地域でもあります。ぜひとも文学作品にさらに親しんでいける様な施策に取り組んでいただきたいと思いますが、区の見解と取り組みを伺います。

所謂「文豪」と呼ばれる日本文学の大家や、著名な日本文学研究者が居を定めていた北区です。ぜひとも、学力調査における国語科の成績が東京都や全国の平均を上回っている事に満足する事なく、さらに国語科の学力を大きく伸ばしていただきたいと思います。そのためにも理数系科目や英語だけでなく、国語科においても特に若手教員の指導力・授業力の向上を目的として指導・アドバイスを行う様な取り組みを実施していただきたいと思いますが、区としての見解を伺います。

最後に、田端六丁目に所在する田端中学校旧校舎の利活用について質問します。

田端中学校は現在の新校舎に移転した後、飛鳥中学校のリノベーション工事中の校舎として活用され、その後は滝野川第四小学校のリノベーション工事中の運動会の会場等として活用されてきましたが、先月末をもって滝野川第四小学校のリノベーション工事も完了しました。

田端駅と駒込駅のほぼ中間に位置し、山手線、京浜東北線、南北線の 3 線が利用できる交通に恵まれた立地環境でもあり、田端中サブファミリーの滝野川第四小学校学区の区民の方々の間でも今後の利活用についての関心は高く、早期に利活用についての計画が立てられることを望みます。

田端中学校旧校舎の体育館は新幹線沿線の高台に位置しており、夜間利用でも騒音の苦情が出にくい環境にあると思われまます。新校舎に移転するまでは区外のキンボール競技団体が夜間開放を利用して毎週練習に訪れていたと認識しています。そこで、今後まずは体育館を改装してボルダリングやスケートボード等のニュースポーツを行える施設として活用してはどうかと思いますが、区としての見解を伺います。

特にスケートボードは東京オリンピック、パリオリンピックでの日本人選手の活躍以降、とても人気が高まっているスポーツですが、練習場所が限られています。そのため、公共の広場等で夜間に練習する若者も多く、周辺環境を傷付けたり、騒音等で地域住民とトラブルになるケースも増えており、田端駅近くの「田端ふれあい橋」においても同様な状況が散見されます。北区内にスケートパークが設置される事により、区内の若者世代にはニュースポーツに対する関心が更に高まり、区外の若者対しても北区の認知度をさらに高める効果もあるのではないかと考えますが、区としての見解をお示しくください。